

素足で踊る舞踊のための身体運動の技術Ⅲ

—上肢と下肢の動きの関連—

堀 切 紘 子

序 舞踊の教授法・指導法・創作法は、身体的、精神的な2面から考えられる。前者では、呼吸と動きの関連、立位・坐位・臥位のアラインメントを知ること、けがの予防に通じるからだの正しい使い方を知ることなどに立脚して、からだの各部分がどのように動くかを知ることが挙げられる。足と脚の動き（'91）、肩と腕の動き（'92）を基に、起立位ではどのように上肢と下肢の動きは考えられるだろうかということ明らかにする。

本論 水平面・矢状縫合面・冠状縫合面を基準に片側の下肢の動きがどのように上肢の動きを生み出すか。起立位での水平面上の明確な方向は、前・後・左・右である（Fig. 1）。1. 両足（脚）を揃えた起立位では、その場で片足（脚）をどのように動かすことができるか。①外輪に向きを変える（中心は、踵）と②内輪に向きを変える（中心は、爪先）の2種である。この時、動かした足（脚）に対して上肢の動きはどのように現われるか。①では矢状縫合面に対して反対側の上肢の動きが現われ、②では冠状縫合面に対して反対側の上肢の動きが現われる（Fig. 2）。2. 起立位では、片足（脚）をその場からどのように動かすことができるか。①冠状縫合面に対して前と後方向、②矢状縫合面に対して同側の斜め前と後方向、③矢状縫合面に対して反対側の斜め前と後方向の6種である（Fig. 3）。この時動かした足（脚）に対して上肢の動きはどのように現われるか。①では、片足（脚）を前方向に動かした時、矢状縫合面に対して反対側の上肢の動きが同方向に現われ、後方向に動かした時には、同面に対して同側の上肢の動きが反対方向に現われる（Fig. 4）。②では、片足（脚）を斜め前方向に動かした時、矢状縫合面に対して反対側の上肢の動きが同方向に現われ、斜め後方向に動かした時には、同面に対して同側の上肢の動きが反対方向に現われる（Fig. 5）。③では、片足（脚）を斜め前方向に動かした時、矢状縫合面に対して同側の上肢の動きが同方向に現われ、斜め後方向に動かした時には、同面に対して同側の上肢の動きが同方向に現われる（Fig. 6）。

結 これらは基本とする下肢の動きを基に、上肢の動きがどのように現われるかを述べたものである。舞踊のための動きを生み出すには、これらとは反対の上肢と下肢の動き、同時にまたは継時に

動くなど動きを発展させる課題が山積しており、「動けるからだ」のために、からだ本来の持つ動きを追求してゆく端緒となるものとする。

Fig. 1

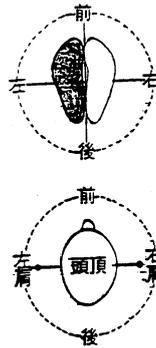


Fig. 2

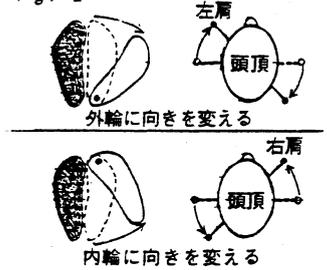


Fig. 3 前

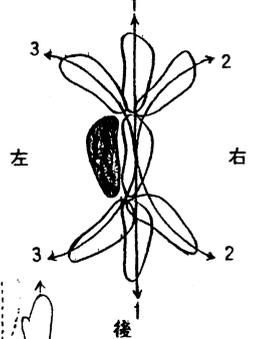


Fig. 4 前

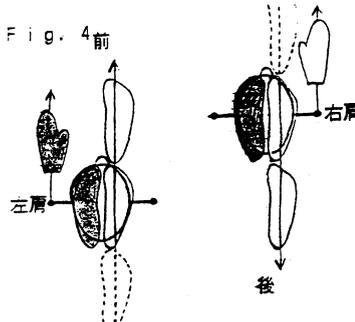


Fig. 5

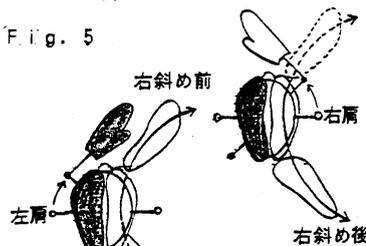


Fig. 6

